

どうなる日本！

福井県の人口 75万人を割り込む

総務省が公表した昨年10月

1日時点の福井県の人口は、前年同月比9千人減の74万4千人。人口の減少率が前年から12%も拡大し1・12%となり、全国で15番目に大きい。

2月1日現在の推計人口は74万9682人で、1971（昭和46）年以来、52年ぶりに75万人を割り込んだ。全17市町で前月を下回り、減少数が最も多いのは福井市で411人減。越前市が105人減、敦賀市が97人減と続き、県全体では1098人のマイナスとなった。

福井県の人口は1971（昭和46）年以降、増加傾向が続き一時は80万人を超えたが、2000（平成12）年をピー

クに人口減少に歯止めがかからず、国立研究所は2050年には25・3%減の57万3000人と予想する。

過去の出生数 過去年最低を更新

少子化も一層深刻な事態になっている。1人の女性が一生のうちに生む子供の数を示す「合計特殊出生率」。

厚生労働省は毎年の人口動態統計を基に5年間の合計特

2023年福井県
出生数
4,563人
合計特殊出生率
1・46

福井県
市町別合計特殊出生率
2018~2022年の平均値

福井県	1.55
福井市	1.55
敦賀市	1.55
小浜市	1.71
大野市	1.51
勝山市	1.49
鯖江市	1.66
あわら市	1.39
越前市	1.59
坂井市	1.46
永平寺町	1.34
池田町	1.50
南越前町	1.52
越前町	1.53
美浜町	1.64
高浜町	1.83
おおい町	1.91
若狭町	1.68

殊出生率の平均値を推定し、市町村別に公表。2018（平成30）令和4）年は、約6割が1・2以上1・5未満に含まれ、平均値は1・33、前回の2013（17）年より0・1%下がった。

出生率の高い方をみると、

鹿児島県大島郡徳之島町が2・25で最も高く、次いで同県同郡天城町2・24。一方、低い方を見ると、京都府京都市東山区が0・76で最も低く、次いで大阪府大阪市浪速区0・80、同率で京都府京都市上京区。合計特殊出生率の最も高い市区町村と最も低い市

区町村の差は1・50となっている。

福井県はおおい町が最も高く1・91で全国25位、次いで高浜町の1・83。17市町の平均値は1・55だった。

毎年公表している単年の合計特殊出生率は2005（平成17）年に過去最低を記録したが、いったん持ち直し15（平成27）年には1・45まで上昇。その後は低下し昨年1・20となり、データのある1974（昭和49）年以降の過去最低を更新。東京都が0・99で都道府県別で最も低く、初めて1を下回り話題となった。